

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新潟医療福祉大学
設置者名	学校法人新潟総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
リハビリテーション学部	理学療法学科	夜・通信	3	0	17	20	13	
	作業療法学科	夜・通信	3	0	14	17	13	
	言語聴覚学科	夜・通信	3	0	22	25	13	
	義肢装具自立支援学科	夜・通信	3	0	13	16	13	
	鍼灸健康学科	夜・通信	3	0	14	17	13	
臨床技術学部	臨床技術学科	夜・通信	3	0	17	20	13	
	視機能科学科	夜・通信	3	0	15	18	13	
	救急救命学科	夜・通信	3	0	16	19	13	
	診療放射線学科	夜・通信	3	0	14	17	13	
健康科学部	健康栄養学科	夜・通信	3	0	12	15	13	
	健康スポーツ学科	夜・通信	3	0	14	17	13	
看護学部	看護学科	夜・通信	3	0	13	16	13	
心理・福祉学部	社会福祉学科	夜・通信	3	0	11	14	13	
	心理健康学科	夜・通信	3	0	10	13	13	
医療経営管理学部	医療情報管理学科	夜・通信	3	0	12	15	13	

(備考)

「実務経験のある教員等による授業科目」のシラバスには、【授業の概要】欄にどのような実務経験をもつかを記載している。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟医療福祉大学
設置者名	学校法人新潟総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure/officer.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	医療法人理事長	2025.6.10 ～ 2027 年度の 定時評議員会 終結の時まで	法人代表
非常勤	株式会社役員	2025.6.10 ～ 2027 年度の 定時評議員会 終結の時まで	理事長補佐
非常勤	学校法人理事	2025.6.10 ～ 2027 年度の 定時評議員会 終結の時まで	理事長補佐
非常勤	学校法人理事	2025.6.10 ～ 2027 年度の 定時評議員会 終結の時まで	組織運営体制へのチ ェック機能等
非常勤	株式会社役員	2025.6.10 ～ 2027 年度の 定時評議員会 終結の時まで	組織運営体制へのチ ェック機能等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟医療福祉大学
設置者名	学校法人新潟総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
1) 作成過程	
<p>本学が開設する全授業科目について、シラバスを作成し、下記 URL のポータルサイトにおいて公表している（ポータルサイト上のシラバスの閲覧は、学外者の閲覧も可能になっている）。</p> <p>シラバスの作成にあたっては、「シラバス作成マニュアル」を配布し、「授業の概要」「授業の目的」「学習目標」、各授業回数における「授業計画・学習主題」「授業形態・事前事後学習・学習課題・備考」等の決められた記載事項の書き方についてガイドラインを示している。</p> <p>開講年度のみならず、次年度以降に開講する科目についてもシラバスを掲載しており、学生が4年間の履修計画を見通して立てられるように配慮している。</p> <p>建学の精神「優れた QOL サポーターの育成」に資するように、QOL サポーターとして備えるべき資質として S（科学的知識と技能を学び続ける力）・T（チームワークとリーダーシップを発揮する力）・E（対象者を支援する力）・P（問題を解決する力）・S（自己実現を達成する力）の5つを定義し、各科目のディプロマポリシーとの関連性をシラバスに明記している。</p>	
2) 作成・公表時期	
<p>シラバスの作成は前年度12月から開始する。</p> <p>公開時期は、新年度開始前の3月下旬としている。</p>	
※なお、上記の記載事項は全学部共通の取り組みである。	
授業計画書の公表方法	<p>本学 WEB ポータルサイトの下記 URL にて授業科目名を入力して閲覧（学外者の閲覧も可能）</p> <p>https://portal.nuhw.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</p>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

下記のとおり、「新潟医療福祉大学授業科目の履修の認定、試験及び成績評価に関する細則」に則り試験の実施および成績評価を行う。また、下記細則の第4条第5項においては、平常の学習の成績、出席状況及び授業科目担当教員が提出させたレポート等の成績等を加味することができると定められており、各科目担当者がシラバスに記載した評価方法に従って、成績評価を行う。

新潟医療福祉大学授業科目の履修の認定、試験及び成績評価に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、新潟医療福祉大学学則第25条に規定する授業科目の履修および試験ならびに第32条に規定する成績の評価に関する必要な事項を定める。

(履修認定)

第2条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、当該授業科目の履修を認定し、所定の単位を与える。

2 演習、実習および実技については、平常の学修の成績等に基づいて履修を認定し、所定の単位を与えることができる。

3 学外実習科目については、別に学科の定めるところにより履修を認定し、所定の単位を与えることができる。

(試験種類)

第3条 試験は、定期試験、追試験および再試験とする。

(定期試験)

第4条 定期試験とは、履修した科目の授業が終了する学期の中間または学期末の試験期間に行う試験をいう。

2 定期試験の実施日時は、試験期間初日の2週間前までに一括して公示する。

3 教育上有益と認めるときは、授業科目の平常の学修の成績または授業科目担当教員が提出させたレポート等の成績をもって、定期試験に代えることができる。

4 定期試験の結果および前項の成績の結果は、合格、要再試験、不合格の三段階で公示する。

5 定期試験の結果には、必要に応じ授業科目の平常の学修の成績、授業科目担当教員が提出させたレポート等の成績を加味することができる。

(追試験)

第5条 追試験とは、病気、その他やむを得ない理由によって授業科目の定期試験を受けることができなかった学生に対して、当該授業科目について行わなければならない試験をいう。

2 追試験を受験しようとする者は、授業科目担当教員に理由を説明して許可を得なければならない。なお授業科目担当教員は、正当な理由である場合は必ず許可するものとする。

3 教育上有益と認めるときは、授業科目担当教員が新たに提出させるレポート等の成績をもって、追試験に代えることができる。

4 追試験の結果、および前項の成績の結果は、合格、要再試験、不合格の三段階で公示する。

5 追試験の結果には、必要に応じ授業科目の平常の学修の成績、授業科目担当教員が提出させたレポート等の成績を加味することができる。

(再試験)

第6条 再試験とは、定期試験、追試験、第4条第3項で定める成績または第5条第3項で定める成績の結果において、要再試験とされた授業科目がある学生に対して、当該授業科目について、改めて行う試験をいう。

2 教育上有益と認めるときは、授業科目担当教員が新たに提出させるレポート等の成績をもって、再試験に代えることができる。

3 再試験の結果および前項の成績の結果は、合格、要再試験、不合格の三段階で公示する。

(受験資格)

第7条 次の各号に該当する者は、履修登録した授業科目の試験の受験を認めないことがある。

- (1) 授業料を滞納している者
 - (2) 授業の出席時間数が、授業の総時間数の3分の2未満の者
- (成績評価)

第8条 成績評価は、授業科目の担当教員が行う。

2 定期試験、追試験、第4条第3項で定める成績、および第5条第3項で定める成績は、100点を上限として、再試験および第6条第2項で定める成績は60点を上限として採点し、成績評価基準や評価区分等については、別表1のとおりとする。

3 点数が59点以下の場合、要再試験として評価区分の確定を保留し、再試験の成績によって

評価区分を決定することができる。

4 正当な理由なく再試験を受けなかった学生の成績は、原則として、評価区分をDとする。

(GPA)

第9条 成績を総合的に判断する指標として、グレード・ポイント・アベレージ（以下「GPA」という。）を用いる。

2 GPAは、各履修科目の単位数と評価区分に応じて与えられたグレード・ポイント（以下「GP」という。）を乗じたものの総和を、総履修登録単位数で除して算出するものとする。

3 評価区分とGPの対応は別表1のとおりとする。

(成績評価報告)

第10条 授業科目担当教員は指定の期日までに、試験の成績と評価区分を確定しなければならない。

2 学科長は学長の求めに応じて報告しなければならない。

(不正行為に対する罰則)

第11条 試験において不正行為を行った学生に対しては、当該授業科目又は当該学期の全履修科目の評価区分をDとした上で、学則第46条の規定に基づいて懲戒する。

(学外実習に対する罰則)

第12条 学外実習において情報倫理に反する行為を行った学生に対しては、当該学外実習科目又は当該学期の全履修科目の評価区分をDとした上で、学則第46条の規定に基づいて懲戒する。

(単位授与)

第13条 履修した授業科目の単位授与は、授業科目担当教員が試験その他適切な方法により学修の成果を評価して行う。

(補則)

第14条 この細則に定めるもののほか、試験実施等に必要な事項は教務委員会が別に定める。

(改廃)

第15条 この細則の改廃は、総務会の議を経て学長が行う。

附 則

この細則は、平成13年7月18日から施行する。

附 則

この細則は、平成16年3月17日から施行する。

附 則

この細則は、平成17年9月28日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年1月20日から施行する。

<p>附 則 この細則は、平成 2 5 年 1 2 月 4 日から施行する。</p> <p>附 則 この細則は、平成 2 7 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>附 則 この細則は、2 0 2 5 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>2 0 2 4 年度以前に入学した者の履修認定、試験及び成績評価は、この細則による改正後の細則の規程に関わらず、なお従前の例による。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では成績の客観的指標として GPA を導入し、成績評価の S (4 点)・A (3 点)・B (2 点)・C (1 点) までを合格、D (0 点) を不合格としている。ただし、「基礎ゼミ」については、GPA の対象外としている。</p> <p>一部の学科においては、一定の GPA に達している学生に対して履修科目単位数の上限 (CAP 制) を緩和し、より多様な科目履修が可能となり、学修意欲を喚起する仕組みを設けている。</p> <p>なお、学生の成績表には、GPA が明記されている。</p> <p>※GPA 等に関しては、下記 URL にて掲載している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生には『履修の手引き』を公開し、GPA について上記の内容を掲載している。 ・GPA については、上記同様の内容を本学 WEB サイトの下記 URL にて公表している。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html のうち、[取得可能な学位、卒業・修了必要単位修得数等]の項目内
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則第 42 条に定める卒業要件を満たし、かつ、大学全体・各学部・各学科単位でそれぞれディプロマポリシーに適った学生を対象として、卒業判定会議、教授会を経て、学長が卒業を認定する。</p> <p>卒業を認定された者に対しては、学則第 43 条に定める学位 (下記 URL 参照) を授与する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>本学 WEB サイトの下記 URL から、ディプロマポリシー、卒業に必要な修得単位数、取得可能な学位を公表している。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新潟医療福祉大学
設置者名	学校法人新潟総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nuhw.ac.jp/about/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.nuhw.ac.jp/about/financial.html
財産目録	https://www.nuhw.ac.jp/about/financial.html
事業報告書	https://www.nuhw.ac.jp/about/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.nuhw.ac.jp/about/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.nuhw.ac.jp/about/assessment.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	リハビリテーション学部
教育研究上の目的 (公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html のうち、[教育研究上の目的] の項目内)	
(概要) リハビリテーション学部は、幅広い教養科目とリハビリテーションに関連する専門基礎科目や専門専攻科目を通して、リハビリテーションの基盤を形成する理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学および義肢装具自立支援学に関する知識・技能や、科学的思考力、医療従事者としての倫理観と責任感、および人間性を涵養する。さらに、様々な問題点を発見し、論理的に解決する力を養うとともに、変化する社会のニーズや科学の進歩に関心をもち続け、生涯を通じて探求心を礎に自らを高めることができる精神を醸成する。これにより、保健・医療・福祉を主とした多職種間で調和のとれたコミュニケーションを図ることができる「優れた QOL サポーター」を育成する。	
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)	
(概要) [Science&Art] 科学的知識と技能を学び続ける力 持続可能な社会を支える医療分野の一員として、幅広い教養とともに、リハビリテーションに関する確かな知識と技術を身につけている。 [Teamwork&Leadership] チームワークとリーダーシップを発揮する力 多職種間連携の技能を活かし、多様な背景を持つ他者とコミュニケーションを図りながら、対象者の問題解決に向け職務を遂行することができる。 [Empowerment] 対象者を支援する力 医療従事者として豊かな人間性と高潔な倫理観を有し、リハビリテーションを必要とする対象者の QOL への理解と共感に基づき、対象者の自立を促すために適切な支援を行うことができる。 [Problem-solving] 問題を解決する力 リハビリテーションに関する専門知識と他の専門職種の知見を活かしながら、科学的な手法を用いて対象者が抱えている問題を分析・考察し、その解決に取り組むことができる。 [Self-actualization] 自己実現を達成する力 リハビリテーションに関する学びを生涯にわたり続けることで、国際化・情報化に対応し自らの可能性を広げようとする姿勢がある。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)	
(概要) [Science&Art] 科学的知識と技能を学び続ける力 幅広い教養とリハビリテーションに関する確かな知識と技術を修得するために、基礎教養科目群や専門基礎科目群、専門専攻科目群を配置する。成果は基礎教養科目群、専門基礎科目群及び専門専攻科目群の成績により評価する。 [Teamwork&Leadership] チームワークとリーダーシップを発揮する力 多職種間連携の技能や多様な背景を持つ他者とのコミュニケーション能力を修得するため	

に、保健医療福祉連携科目群を配置する。成果は保健医療福祉連携科目群の成績により評価する。

〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力

リハビリテーションを必要とする対象者の QOL を共感的に理解し、適切な支援を行うことができるようになるために、専門専攻科目群に臨床実習を配置する。成果は臨床実習の成績により評価する。

〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力

科学的な手法を用いて対象者が抱えている問題を分析・考察・解決するために、専門専攻科目群に演習科目を配置するとともに、4 年次に卒業研究を配置する。また他の専門領域も含め幅広く研究活動に触れられるよう、1 年次から 4 年次まで、基礎教養科目群に研究プロジェクト演習（UROP）を配置する。成果は卒業研究の成績により評価する。

〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力

優れた QOL サポーターになり自らの可能性を広げるとともに、リハビリテーションに関する学びを生涯にわたり続けていく基盤を確立するために、専門基礎科目群および専門専攻科目群に専門性の高い科目を配置する。成果は専門基礎科目群および専門専攻科目群の成績で評価する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL で公表。

<https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html>）

（概要）

〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力

高等学校卒業相当の基礎学力および学習能力を有する。

〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力

相手の話をよく聞き、自分の考えを相手にわかりやすく伝えながら、他者と協力して物事を行おうとする態度を有する。

〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力

他者の意見を共感的に理解することができ、リハビリテーションを必要とする対象者を支援しようとする態度を有する。

〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力

ある事象における課題を解決するために、他者の意見を取り入れながら、多面的に考える能力を有する。

〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力

リハビリテーションに関する専門職種を志す動機や意欲を有する。

学部等名 医療技術学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html のうち、[教育研究上の目的] の項目内)</p>
<p>(概要)</p> <p>医療技術学部は、多くの学問領域から構成されている特徴を生かした連携教育や工夫されたカリキュラムなどを通して、科学的思考力とともに専門的な知識・技術、幅広い教養を育み、高い倫理観や豊かな人間性を養うとともに、変化する社会のニーズや科学の進歩に関心をもち続け、生涯を通じて探求心を礎に自らを高めることができるよう支援する。これにより、保健・医療・福祉を主とした多職種間で調和のとれたコミュニケーションを図ることができる「優れた QOL サポーター」を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>[Science&Art] 科学的知識と技能を学び続ける力 持続可能な社会を支える医療分野の一員として、幅広い教養とともに、医療技術に関する確かな知識と技術を身につけている。</p> <p>[Teamwork&Leadership] チームワークとリーダーシップを発揮する力 多職種間連携の技能を活かし、チーム医療の一員として多様な背景をもつ他者とコミュニケーションを図りながら、対象者の問題解決に向け職務を遂行することができる。</p> <p>[Empowerment] 対象者を支援する力 自らの専門職種に関する高い技能を活かし、対象者の QOL への理解と共感に基づき、対象者のニーズを踏まえた適切な支援を行うことができる。</p> <p>[Problem-solving] 問題を解決する力 豊かな人間性と高潔な倫理観を有し、他の専門職種の知見を活かしながら対象者が抱えている問題を論理的に分析・考察し、その解決に取り組むことができる。</p> <p>[Self-actualization] 自己実現を達成する力 医療技術の発展に関心をもち、専門性やチーム医療に関する学びを生涯にわたり続けることで、国際化・情報化に対応し自らの可能性を広げようとする姿勢がある。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>[Science&Art] 科学的知識と技能を学び続ける力 幅広い教養と医療技術に関する確かな知識と技術を修得するために、基礎教養科目群や専門基礎科目群、専門専攻科目群を配置する。成果は基礎教養科目群、専門基礎科目群及び専門専攻科目群の成績により評価する。</p> <p>[Teamwork&Leadership] チームワークとリーダーシップを発揮する力 多職種間連携の技能や多様な背景をもつ他者とのコミュニケーション能力を修得するために、保健医療福祉連携科目群を配置する。成果は保健医療福祉連携科目群の成績により評価する。</p> <p>[Empowerment] 対象者を支援する力 対象者の QOL を共感的に理解し、対象者のニーズを踏まえた適切な支援を行うことができるようになるために、専門専攻科目群に臨床実習を配置する。成果は臨床実習の成績により評価する。</p> <p>[Problem-solving] 問題を解決する力 科学的な手法を用いて対象者が抱えている問題を分析・考察・解決するために、専門専攻科目群に演習科目を配置するとともに、4 年次に卒業研究を配置する。また他の専門領域</p>

<p>も含め幅広く研究活動に触れられるよう、1 年次から 4 年次まで、基礎教養科目群に研究プロジェクト演習（UROP）を配置する。成果は卒業研究の成績により評価する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 自らの可能性を広げようとする姿勢をもち、チーム医療に関する学びを生涯にわたり続けていく基盤を確立するために、専門基礎科目群および専門専攻科目群に専門性の高い科目を配置する。成果は専門基礎科目群および専門専攻科目群の成績で評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL で公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 高等学校卒業相当の基礎学力および学習能力を有する。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 相手の話をよく聞き、自分の考えを相手にわかりやすく伝えながら、他者と協力して物事を行おうとする態度を有する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 対話や関わりを通して、他者の意見や思いを把握し、それを共感的に理解しようとする態度を有する。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 ある事象における課題を解決するために、他者の意見を取り入れながら、多面的に考える能力を有する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 医療技術に関する専門職種を志す動機や意欲を有する。</p>

<p>学部等名 健康科学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html のうち、〔教育研究上の目的〕の項目内）</p>
<p>（概要）</p> <p>健康科学部は、幅広い教養と豊かな人間性を育み、専門分野の深い理解をもとに健康課題についての的確な判断力と問題解決能力を醸成する。また、高い技能とコミュニケーション能力とともに、専門的職業人としての使命感と責任感を培い、社会や科学の発展に関心をもち、生涯を通じて探求心を礎に主体的に学習する人材を育成する。これらにより、人の健康づくりを担う「優れた QOL サポーター」の育成を目指す。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 持続可能な社会を支える構成員として、幅広い教養とともに、健康科学に関する確かな知識と技術を身につけている。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 多職種間連携の技能を活かし、多様な背景をもつ他者とコミュニケーションを図りながら、チーム共通の目標に向けて職務を遂行することができる。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 豊かな人間性と高潔な倫理観を有し、対象者の QOL への理解と共感に基づき、国際化・情報化した社会の一員として対象への支援を適切に行うことができる。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 他の専門職種の知見を活かしながら、科学的な手法を用いて問題を論理的に分析・考察し、</p>

<p>対象者が抱えている課題の解決に取り組むことができる。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 保健・医療・福祉・スポーツに関する学びを生涯にわたり主体的・意欲的に続けることで、自らの可能性を広げようとする姿勢がある。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 幅広い教養と健康科学に関する確かな知識と技術を修得するために、基礎教養科目群や専門基礎科目群、専門専攻科目群を配置する。成果は基礎教養科目群、専門基礎科目群および専門専攻科目群の成績により評価する。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 多職種間連携の技能や多様な背景をもつ他者とのコミュニケーション能力を修得するために、保健医療福祉連携科目群を配置する。成果は保健医療福祉連携科目群の成績により評価する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 対象者の QOL を共感的に理解し、国際化・情報化した社会の一員として適切な支援を行うことができるようになるために、専門専攻科目群に臨床実習を配置する。成果は臨床実習の成績により評価する。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 科学的な手法を用いて問題を論理的に分析・考察し、対象者が抱えている課題の解決に取り組むために、専門専攻科目群に演習科目を配置するとともに、4 年次に卒業研究を配置する。また他の専門領域も含め幅広く研究活動に触れられるよう、1 年次から 4 年次まで、基礎教養科目群に研究プロジェクト演習（UROP）を配置する。成果は卒業研究の成績により評価する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 自らの可能性を広げようとする姿勢をもち、保健・医療・福祉・スポーツに関する学びを生涯にわたり続けていく基盤を確立するために、専門基礎科目群および専門専攻科目群に専門性の高い科目を配置する。成果は専門基礎科目群および専門専攻科目群の成績で評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL で公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 高等学校卒業相当の基礎学力および学習能力を有する。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 相手の話をよく聞き、自分の考えを相手にわかりやすく伝えながら、他者と協力して物事を行おうとする態度を有する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 対話や関わりを通して、他者の意見や思いを把握し、それを共感的に理解しようとする態度を有する。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 ある事象における課題を解決するために、他者の意見を取り入れながら、多面的に考える能力を有する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 保健・医療・福祉・スポーツに関する専門職種を志す動機や意欲を有する。</p>

学部等名 看護学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html のうち、〔教育研究上の目的〕の項目内)</p>
<p>(概要)</p> <p>看護学部は、人の多様な価値観を尊重し、人権擁護に基づく行動がとれる倫理的能力や看護者として必要な幅広い教養と豊かな人間性を培い、専門的知識と方法論を用いて課題を解決していくための判断力と問題解決能力を育成する。さらに、保健医療福祉における看護の役割を果たし、連携医療を担える能力を育成するとともに、看護の動向や社会の変化に関心をもち続け、地域・国際社会におけるヒューマンケアリングに基づいた看護を探究しようとする使命感と責任感を涵養する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 看護の対象となる人を全人的に理解するための教養とともに看護に関する専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力。 多職種と良好なコミュニケーションを図り、連携しながら調整役として主体的に行動することができる。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 豊かな人間性と高潔な倫理観を有し、多様な背景をもつ対象者の QOL 向上に向けて看護を提供することができる。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 対象の健康課題を判断し、科学的根拠に基づいてその解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 知的好奇心をもち、社会の変化や看護の動向に対応し、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 看護の対象となる人を全人的に理解するために基礎教養科目、保健医療福祉教養科目を配置する。さらに、看護に関わる専門的知識と技術を身につけるため 1 年次から専門基礎科目、専門専攻科目を配置する。これらにより段階的にアセスメント力を修得できるようにする。成果は当該科目の成績により評価する。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 多職種との連携・協働に必要なコミュニケーション力と調整力を修得するために保健医療福祉教養科目、保健医療福祉連携科目を配置する。また、専門専攻科目においてもグループ学習を活用し、メンバーシップ・リーダーシップを養う。成果は当該科目の成績により評価する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 豊かな人間性と高潔な倫理観をもって対象と関わるできるよう、保健医療福祉教養科目・専門基礎科目・専門専攻科目に倫理や哲学に関する選択科目を配置する。また、専門専攻科目に看護倫理、1 年次から臨地実習を配置し、2 年・3 年次はさまざまな発達段階・健康段階にある対象に対する看護を実践できるよう実習を配置する。成果は当該科目と臨地実習の成績により評価する。</p>

<p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 対象の健康課題を解決に向けて取り組むことができるよう専門基礎科目、臨地実習を含む専門専攻科目を配置する。そのための判断力、実践力を身につけられるよう4年間を通して課題解決型学習、シミュレーション教育を取り入れる。成果は当該科目と臨地実習の成績により評価する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 社会の変化や看護の動向に好奇心をもち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる看護師となるために専門専攻科目に看護実践論、統合実習、卒業研究などの統合・発展の科目を配置する。多様な看護職のキャリア選択を可能とする看護師、保健師、助産師、養護教諭の専門専攻選択科目を配置する。成果は当該科目と卒業生の進路により評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：本学WEBサイトの下記URLで公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 高等学校卒業相当の英語・国語および入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 自分の意思を表現し、周囲の人々と協力して物事を成し遂げる能力を有する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 自他の生命を尊重し、思いやりの心をもって誠実に人と接する態度を有する。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 ある事象に対して探究心をもち、さまざまな視点から物事を考え、自分の意見を表現できる能力を有する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 看護に対する興味・関心があり、看護を学ぶ高い意欲を有する。</p>

<p>学部等名 心理・福祉学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：本学WEBサイトの下記URLにて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html のうち、〔教育研究上の目的〕の項目内）</p>
<p>（概要）</p> <p>心理・福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を育み、社会福祉学や心理学、心身の健康に関連する専門的知識・技術をもとに課題を発見して解決する思考力と判断力を養成する。また、人間と社会の諸問題や、福祉社会の構成要素の動向に関心を持ち、探求心を礎に主体的に学び続ける姿勢を育成する。これらにより、人間の多様な生き方や個性を尊重し、多様な人々のウェルビーイングに貢献できる「優れたQOLサポーター」を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：本学WEBサイトの下記URLにて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 心理・社会福祉に関する専門知識や技術を、利用者の理解や支援に活かすことができる。心理・社会福祉に関する情報を収集・整理できる。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 多様な人々と良好なコミュニケーションをとり、連携を図ることができる。組織や地域社会、または国際社会の一員としての役割を果たすことができる。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力</p>

<p>豊かな人間性と倫理観に基づいて、人々の多様性や個性を尊重できる。 また、人々の多様性や個性を尊重する姿勢を利用者の支援に活かすことができる。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 心理・社会福祉に関する課題に関心をもち、理論と実践を結び付けながら利用者の問題解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 社会の変化に対応し、自ら学び続ける意欲をもつことができる。 心理・社会福祉に関する専門性を活かして、社会に貢献する意欲をもつことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 心理学・社会福祉学の学問体系を基盤として体系的に科目を編成しており、年次進行に沿って基礎的な科目から応用・発展的な科目を学修できるようにしている。また、2年次から心理学・社会福祉学の専門的科目を配置し、専門性を高められるように編成している。その成果は、専門専攻科目群の成績及び国家試験合格率により評価する。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 学生が主体的・能動的に学び、チームワークやコミュニケーション力を養えるように、1年次から保健医療福祉連携科目群を配置する。また、2年次からは演習科目や実験・実習関連科目を配置し、円滑なコミュニケーション能力と積極的なリーダーシップおよび行動力を向上できるように編成している。その成果は、学外実習の成績により評価する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 心理・社会福祉に関わる専門職に相応しい倫理観を修得し、人々の多様性や個性を尊重する姿勢を養えるように、1年次から保健医療福祉教養科目群を配置する。また、2年次からは演習科目や実習関連科目を配置し、多様性や個性を尊重して利用者を支援する力を修得できるように編成している。その成果は、学外実習の成績により評価する。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 多様な社会的課題に触れる機会を提供するため、1年次に保健医療福祉教養科目群や心理学・社会福祉学の基礎に関する科目を配置する。2年次からは理論と実践を結び付けながら問題解決に向けて取り組む力を修得するために実験・実習関連科目を配置し、4年次に卒業研究を実施する。その成果は、卒業研究の成績により評価する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 幅広い視野と自律的な学修姿勢を身に付けるため、1年次からゼミ活動やキャリア形成教育を実施する。2年次からは心理学・社会福祉学の専門的科目や実習関連科目を配置し、自らの専門性を活かして社会に貢献する能力を涵養する。その成果は、就職率により評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL で公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 高等学校卒業相当の英語・国語など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 他者と積極的にコミュニケーションを図り、協調する姿勢を有する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 他者の価値観を尊重し、支援したいという意志を有する。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 人間の心理や心身の健康に関する課題または社会福祉に関する課題の解決に向けて取り組</p>

む意欲を有する。
〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力
 人間の心理や心身の健康または社会福祉に関心を持ち、専門性を活かした社会貢献や主体的学びへの意欲を有する。

学部等名 医療経営管理学部
教育研究上の目的 （公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html のうち、〔教育研究上の目的〕の項目内）
（概要） 医療経営管理学部は、医療・経営・情報に関する専門的知識を有し、医療情報管理分野の専門的知識に根ざした思考力・判断力を涵養する。また、社会の変化、医療情報技術の進歩に関心をもち続け生涯を通じて主体的に学び続ける姿勢を養成する。さらに、社会人の一員として、専門的職業人として、礼節・使命感・責任感をもち対象者・同僚・関連職種と良好なコミュニケーションがとれる能力と問題解決能力を有する「優れた QOL サポーター」を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html ）
（概要） 〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 人を理解するための幅広い教養的知識と医療・経営・情報に関する専門的知識・技能を活用できる。 〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 対象者、同僚および保健医療福祉スポーツ分野の複数の職種との対話を重視したチームアプローチを図ることで、良好なコミュニケーションおよび横断的・融合的な連携をとることができる。 〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 社会の一員としての礼節をわきまえ、専門的な職業人としての使命感や責任感を有する。また、豊かな人間性と倫理観に基づき対象者の多様性、尊厳を尊重し、QOL 向上のため適切に行動できる。 〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 職場や地域社会で医療情報管理分野の専門的知識・技能に根ざした思考と判断により問題解決できる。 〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 グローバル化、情報化が進む社会の変化や医療情報技術の進歩に関心をもち続け、自らを高めるため、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html ）
（概要） 〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 専門技術者として必要な技術や人間を理解できる教養を身につけるために医療・経営・情報に関する基礎から応用に至る幅広い内容をもつ専門基礎科目群を配置する。成果は資格試験合格率で評価する。 〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力

<p>自己を表現し、実践する能力を身につけるとともに、対象者や他の職種とコミュニケーションをとりながら連携する技術を身につけるためにゼミ形式の自己表現法、自己実現法、キャリア開発などの授業を配置する。成果は専門基礎科目の成績により評価する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 医療福祉分野、情報分野などで活躍できる知識や技術を修得するために専門専攻科目を配置し、それを各分野で実践するための能力を涵養するために演習科目を配置する。成果は専門専攻の演習科目の成績で評価する。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 医療・経営・情報に関する分野で、問題点を発見・分析・解決するための知識や技術を修得するために専門専攻科目を配置する。成果は専門専攻科目の成績で評価する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 医療・経営・情報などの分野で生涯に渡って問題意識と探求心をもち続け、自分自身を向上させるための心構えを身につけるために卒業研究などの専門科目を配置する。成果は卒業研究で評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL で公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>〔 Science&Art 〕 科学的知識と技能を学び続ける力 高等学校卒業相当の英語・国語・数学など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の基礎学力を有する。</p> <p>〔 Teamwork&Leadership 〕 チームワークとリーダーシップを発揮する力 他者の話を理解するとともに、自らの意見をわかりやすく伝える能力を有する。</p> <p>〔 Empowerment 〕 対象者を支援する力 常に人に対する思いやりをもつとともに、自ら積極的に行動しようとする態度を有する。</p> <p>〔 Problem-solving 〕 問題を解決する力 ある事象に対して自分なりの思考に基づいた判断をくだすために多くの事柄を考慮し、まとめる能力を有する。</p> <p>〔 Self-actualization 〕 自己実現を達成する力 医療・経営・情報の領域に強い関心があり、関連する資格を取得し、将来、その分野で活躍しようとする高い意欲を有する。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：本学 WEB サイトの下記 URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/organization.html</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
リハビリテーション学部	－	28 人	11 人	29 人	11 人	4 人	83 人
医療技術学部	－	26 人	4 人	18 人	11 人	7 人	66 人
健康科学部	－	16 人	11 人	21 人	14 人	5 人	67 人
看護学部	－	9 人	6 人	6 人	13 人	4 人	38 人
心理・福祉学部	－	13 人	5 人	7 人	8 人	2 人	35 人
医療経営管理学部	－	8 人	3 人	4 人	4 人	2 人	21 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		186 人					186 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
リハビリテーション学部	290 人	327 人	112.8%	1,120 人	1,127 人	97.2%	0 人	0 人
医療技術学部	295 人	286 人	96.9%	1,180 人	1,177 人	99.7%	0 人	0 人
健康科学部	330 人	333 人	100.9%	1,210 人	1,266 人	104.6%	10 人	1 人
看護学部	107 人	124 人	115.9%	434 人	474 人	109.2%	6 人	1 人
心理・福祉学部	200 人	153 人	76.5%	650 人	518 人	72.6%	10 人	1 人
医療経営管理 学部	80 人	67 人	83.7%	330 人	337 人	102.1%	10 人	0 人
合計	1,302 人	1,290 人	99.1%	4,924 人	4,899 人	95.6%	46 人	3 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・ 修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
リハビリテーション学部	230 人 (100%)	24 人 (10.4%)	191 人 (83.0%)	15 人 (6.6%)
医療技術学部	278 人 (100%)	8 人 (2.9%)	251 人 (90.3%)	19 人 (6.8%)
健康科学部	286 人 (100%)	12 人 (4.2%)	263 人 (92.0%)	11 人 (3.8%)
看護学部	104 人 (100%)	0 人 (0%)	102 人 (98.0%)	2 人 (2.0%)
心理・福祉学部	108 人 (100%)	3 人 (2.8%)	98 人 (90.7%)	7 人 (6.5%)
医療経営管理学部	93 人 (100%)	2 人 (2.2%)	86 人 (92.5%)	5 人 (5.3%)
医療福祉学研究科 (修士課程)	53 人 (100%)	11 人 (20.8%)	32 人 (60.4%)	10 人 (18.8%)
医療福祉学研究科 (博士課程)	13 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (100%)	0 人 (0%)
合計	1165 人 (100%)	60 人 (5.2%)	1036 人 (88.9%)	69 人 (5.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な進学先 新潟医療福祉大学大学院				
主な就職先 全国の医療機関・福祉施設・一般企業				
(備考)				
進学者は、大学院・専門学校・外国の学校への進学				
その他は、一時的な仕事についた者・就職準備中の者を計上				
割合(%)は、「合計」に対する割合を示す。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本学が開設する全授業科目について、シラバスを作成し、ポータルサイトにおいて公表している。シラバスの作成にあたっては、「シラバス登録操作マニュアル」を教員に配布し、「授業の概要」「授業の目的」「学習目標」、各授業回数における「授業計画・学習主題」「授業形態・事前事後学習・学習課題・備考」等の決められた記載事項の書き方についてガイドラインを示している。

開設年度のみならず、次年度以降に開講する科目についてもシラバスを掲載しており、学生が4年間の履修計画を見通して立てられるように配慮している。

建学の精神「優れた QOL サポーターの育成」に資するように、QOL サポーターとして備えるべき資質として S (科学的知識と技能を学び続ける力) ・ T (チームワークとリーダーシップを発揮する力) ・ E (対象者を支援する力) ・ P (問題を解決する力) ・ S (自己実現を達成する力) の 5 つを定義し、各科目のディプロマポリシーとの関連性をシラバスに明記している。

シラバスの公開時期は、新年度開始前の 3 月下旬としている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本学では成績の客観的指標として GPA を導入し、成績評価の S (4 点) ・ A (3 点) ・ B (2 点) ・ C (1 点) までを合格、D (0 点) を不合格としている。ただし、「基礎ゼミ」は GPA 対象外としている。

一部の学科においては、一定の GPA に達している学生に対して履修科目単位数の上限 (CAP 制) を緩和しており、より多様な科目履修が可能となり、学修意欲を喚起する仕組みを設けている。

なお、各学生の成績表 (ポータルサイト及び紙面) には、GPA が明記されている。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学則第 42 条に定める卒業要件を満たし、かつ、大学全体・各学部・各学科単位でそれぞれディプロマポリシーに適った学生を対象として、卒業判定会議、教授会を経て、学長が卒業を認定する。

卒業を認定された者に対しては、学則第 43 条に定める学位を授与する。

ディプロマポリシー、卒業要件、取得可能な学位は下記の URL で公表している。

上記の取組は、全学科共通している。

<https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html>

のうち、[取得可能な学位、卒業・修了必要単位修得数等]の項目内

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
リハビリテーション学部	理学療法学科	128 単位	○・無	50 単位
	作業療法学科	132 単位	○・無	50 単位
	言語聴覚学科	(25 年度生以降) 127 単位 (24 年度生まで) 124 単位	○・無	50 単位
	義肢装具自立支援 学科	129 単位	○・無	50 単位
	鍼灸健康学科	124 単位	○・無	50 単位
医療技術学部	臨床技術学科	(22 年度生以降) 169 単位 (20・21 年度生) 129 単位	○・無	50 単位
	視機能科学科	124 単位	○・無	50 単位

	救急救命学科	126 単位	㊦・無	50 単位
	診療放射線学科	128 単位	㊦・無	50 単位
健康科学部	健康栄養学科	124 単位	㊦・無	50 単位
	健康スポーツ学科	125 単位	㊦・無	50 単位
看護学部	看護学科	124 単位	㊦・無	50 単位
心理・福祉学部	社会福祉学科	125 単位	㊦・無	50 単位
	心理健康学科	128 単位	㊦・無	46 単位
医療経営管理学部	医療情報管理学科	124 単位	㊦・無	50 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：下記の本学 WEB ページ URL にて公表。

<https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html>

うち、[教育研究環境に関わる校地・校舎等の施設設備]の項目内

なお、個別の請求により本学入試事務室にてキャンパスガイドを配布。

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
リハビリテーション学部	理学療法学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	左記「その他」の内訳は、施設設備金と実験実習料。
	作業療法学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	
	言語聴覚学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	
	義肢装具自立支援学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	
	鍼灸健康学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	
医療技術学部	臨床技術学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	
	視機能科学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	
	救急救命学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	
	診療放射線学科	1,100,000 円	300,000 円	550,000 円	
健康科学部	健康栄養学科	1,000,000 円	350,000 円	500,000 円	
	健康スポーツ学科	850,000 円	250,000 円	400,000 円	
看護学部	看護学科	1,100,000 円	300,000 円	550,000 円	
心理・福祉学部	社会福祉学科	830,000 円	250,000 円	320,000 円	
	心理健康学科	830,000 円	250,000 円	320,000 円	
医療情報管理学部	医療情報管理学科	800,000 円	280,000 円	250,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎ゼミ 1 年次前期に学生 7～8 人程度のグループに教員 1 人がつき、充実した学生生活を送るための基本的能力を育むことを目的として、大学での学習方法や心構え等を指導する。友人づくりやコミュニケーションの場としても基礎ゼミを活用する。 ○ リメディアル教育 ・総合型・学校推薦型選抜の入学者を対象として、数学・化学・物理・生物（各学科任意）の e-learning による学習を課し、各科目のプレテストを実施する。また、一定の得点に達していない者については、e-learning による学習を継続させる。英語については、プレイスメントテストの結果を必修科目のクラス分けに活用している。 ○ 学修支援センター 学修アドバイザーが常駐し、専門科目の履修に向けて必要な理数系基礎科目の個別指導や、専門科目の補習セミナーや学習相談など、さまざまな要望に対応する。 ○ 国家試験・資格試験指導体制 本学は実学系の学部構成であり、国家試験・資格試験の合格・取得が卒業後の就職に直結することから、卒業研究ゼミの担当教員を中心に、各学科の国家試験・資格試験対策委員と情報共有・連携し、指導にあたっている。 ○ 図書館の開館 図書館は年間 300 日以上開館しており、平日は 9：00～21：00、土曜日は 9:00～17:00 まで開館し、学習に集中できる環境を整備している。 	<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 採用面接試験対策指導 模擬面接を行い、言葉遣い・身だしなみ等の指導を行うとともに、過去の就職活動報告をもとに当該の企業等に特化した指導を実施している。 ○ 業種別学内説明会（4 年次） 医療・福祉施設をはじめとして、過去の実績で各学科からの就職が多い企業等の採用担当者を招き、説明会や合同ガイダンスを実施している。 ○ 就職センターWeb ページ 就職センターのホームページを開設しており、学生は就職試験情報や求人情報の検索が可能で、全国どこからでも就職に関する情報収集が行うことができる。
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アドバイザー制・学年担任制 新入生に対しては、基礎ゼミのクラス単位で教員がアドバイザーとなり、学修・対人関係・一人暮らしの不安等に助言を与えられる体制をとっている。また、学科によっては学年担任制を敷き、アドバイザー同様の役割を担っている。 ○ 学生（心理）相談 予約制により、精神科医師・臨床心理士による心理相談体制を整備している。 	

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：下記の本学 WEB ページ URL にて公表。 https://www.nuhw.ac.jp/about/disclosure.html</p>
<p>備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。</p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F115310105113
学校名（〇〇大学 等）	新潟医療福祉大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人新潟総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		543人（20）人	547人（29）人	555人（29）人
内 訳	第Ⅰ区分	259人	258人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	145人	132人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	80人	67人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	20人	29人	
	区分外（多子世帯）	39人	61人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（－）人
合計（年間）				559人（29）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	一人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	11人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	61人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	61人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。